

さる11月8日に、在り方生き方講演会として筑波大学教授の土井隆義先生をお招きし、1、2年生の皆さんに講演を聞いてもらいました。その内容を振り返ってみます。3年生の皆さんは初めて聞く内容だと思います。

土井先生は、日本人の1人当たりのGDPの、年代による変化をグラフにして、「私たち日本人は戦後ずっと山を登ってきて、90年代半ばぐらいから私達は山を登り切って平坦な高原を歩き始めている」と説明されました。そして、「人はその両親よりも時代に似る。私達はもちろん親の遺伝子を引き継いで育つけれども、同時にその時代の空気を吸って育つので、時代に似る、言ってみれば時代の精神を体現した存在でもある」として、2020年代に生きる我々、特に皆さん若者に焦点を当て、今の時代特有のものの考え方、メンタリティーをさまざまなデータを積み重ねて解き明かしてくれました。その一つを振り返りましょう。

山登りの時代、つまり高度経済成長期には人々は、未来に対して成長や変化を期待しやすかった。今とは全く違う世界がやってくる、それが未来だと信じられるから、希望や目標を抱きやすかった。しかもみんなが山の頂上を目指して登っていたから、つられてみんな努力して山を登るのが当たり前だった。対照的に現代は低成長の時代、山を登り切った広く平坦な高原に、一人一人がバラバラな方向を向いて歩いている。周りを見渡したときに、周りの光景は数年間で何も変わってはいない。従って私たちは今日から明日へ日々変わっていく実感が乏しい。未来に対して成長や変化を期待しづらいから、希望や目標を持ったり、将来に向けて努力することもなかなか難しくなる。土井さんはその証拠に、「勤勉に働いても人生に成功するとは限らない」とか、「人生の成功において最も大切なのは、努力よりも運やコネである」と考える若者の割合が、2000年代以降ずっと増えているというアンケート結果を挙げています。

土井さんは社会学者です。社会学という学問の目的に、社会現象の奥底にある、その現象を引き起こす社会に生きる人たちの心、メンタリティーを解明することがあります。心理学にも似ていますが、土井さんのアプローチは、さまざまなアンケートや社会統計のデータを組み合わせ、時代精神を浮かび上がらせるやり方を取ります。従って、そこで解明された時代精神は、あくまで全体像、メインストリームを示しているだけで、個別には、自分はそうは考えないよとか、自分は将来の目標もちゃんとあるし、それに向けて努力もしていますという牧南生がたくさんいてくれるといいなと思います。

しかし、割合としては多数の人たちが、希望や目標を実感しづらい、努力する意味を感じにくい、こういう時代精神の中に私たちは生きています。でも、諦めてしまうわけにはいきません。社会全体としては成長や変化が乏しくても、皆さん一人一人は必ず日々少しずつ変わっていけるはずですよ。毎日の学校生活で、授業でも部活動でも、今日から明日へ日々変わっていく実感を少しずつ積み重ねていくのはどうでしょう。「今日自分はこんなことを知った、これができるようになった。明日はこんなことが聞けるかな、これを教えてもらおう、自分はなんか少しずつ伸びている感じがするぞ。明日は友達にこの話してみよう。」こうしたちょっとした変化の実感の積み重ねの先に、今とは違う未来がやってくる期待が見えてきて、そして、自分は将来こんな生き方ができそうだ、自分の持ち味・長所を生かしてこんなことをやってみようという希望や目標が持ててくるのではないのでしょうか。もちろんこのためには、もう一つ何かが必要ですね。わかりますか。そう、毎日

少しずつ自分の力で何かをなしていく、努力が必要ですね。

今日はそこで次に、やっぱり努力は大切なんだ、努力することには意味があるよねという話を続けたいところです。このことについて、先日テレビで、メジャーリーガーとして活躍したイチロー選手が、旭川東高校の野球部の生徒を相手に話した言葉が放送されました。とても印象深く、ぜひ皆さんに紹介したいと思ったのですが、長くなりますから次の機会にします。興味がある人は、「イチロー、旭川東」とネットで探してみてください。

さて、明日から冬休みです。そしてお正月がやってきます。「一年の計は元旦にあり」ということわざがあります。「計」とは計画、見通しのこと。一年の初めに、これから来る未来について改めてきちんと見通しを立て1年を過ごすことが大切だという、古くからの戒めを表しています。一年生、二年生はそれぞれ来年二年生、三年生になります。高校生として何かを学び身に付けるべき時間も刻々と短くなっていきます。目標と計画を持って、日々少しずつ努力を積み重ねることができれば、1年間あるのだからきっといろんなことが実現し、成長を実感できるはずですよ。三年生のみなさんはいまもわずかの時間を惜しんで頑張っている最中だと思います。秋から冬への間、積み重ねてきた勉強が少しずつ成果を見せ、やれる実感がだんだんと自信につながってくる頃です。まだまだ不安があるとは思いますが、諦めなければ道は必ず通じます。健康に十分注意して、まずこの冬休みを気合を入れて乗り切りましょう。

新しい年も、元気に牧南生が登校してきてくれることを願っています。以上で終業式の式辞を終わります。